

# 平成25年度 国有林野事業業務研究発表会

森林・林業の現場では、施業の機械化や効率化、森林の保全管理など、日々新しい取組が行われています。森林管理局等においても、新たな施業技術の開発、森林環境教育、生態系保全管理など、地域とのつながりを大切にしながら、様々な事業や取組を進めています。林野庁では、こうした取組成果を広く普及するため、毎年業務研究発表会を開催しています。

本年度の発表会は12月4日に開催され、「森林技術部門」、「森林ふれあい部門」及び今年度から新設した「森林保全部門」の3部門で、計23課題の発表が行われました。これらのうち、ここでは林野庁長官賞(最優秀賞)を受賞した3つの発表課題についてご紹介します。



## 森林技術部門

### 富士山国有林におけるニホンシカ の新しい捕獲手法(誘引捕殺・シ ヤープシューティング)の検討

関東森林管理局  
静岡森林管理署

漆道真也  
まつさかかつし  
松坂勝士

(全部門において発表者の  
所属は課題取組時のもの)



シカによる食害は全国各地で問題となっており、富士山麓地域においても、森林や牧草地などで二ホンシカによる甚大な被害が発生しています。

自然環境や景観の保全のため、シカの有効な頭数調整手法が必要とされていることから、富士山国有林においてシヤープシューティング(※)を、平成23年度から試験的に実施しました。国有林では初めての取組です。

この取組は、静岡森林管理署、富士宮市、静岡県森林・林業研究センターなどで構成する「富士宮市鳥獣被害防止対策協議会」と、研究者、捕獲技術者の連携協力の下で実施し、平成23年度は73頭、平成24年度は199頭を捕獲しました。

関係組織が一つのチームとして協力体制を構築できたことにより、組織的、戦略的な捕獲に繋がったと評価しています。「富士宮市鳥獣被害防止対



策協議会」では、この3年間の実績を踏まえ「実施の手引き」を作成し、これからのシカ対策の推進に活かしていくこととしています。

(※)野生のシカを一時的に餌付けし、少数数が銃器によって餌付けされた全ての個体を捕獲する方法で、一定レベル以上の技量を有する射手、動物の行動をコントロールするための給餌、警戒心の強い個体の出現予防等の体制を備えた捕獲手法。

## 審査委員よりひとこと

独立行政法人 森林総合研究所  
つばやま よしお  
坪山 良夫 水土保持研究領域長



森林技術部門の研究発表は、治山工事、低コスト林業、獣虫害対策、共同施業団地等、幅広い内容で、それぞれの現場の様子を具体的に知ることができる大変貴重な機会でした。

地域の若者と国有林を結び取組

東北森林管理局  
米代東部森林管理署  
上小阿仁支署  
佐々木 嵩史



秋田県上小阿仁村は、かつて林業で栄え、国有林野事業も地域に身近なものでしたが、現在では、特に若年層で国有林との関係が希薄になってきています。

上小阿仁村には、有志によって設立された任意団体の「上小阿仁若者会議」があり、地域の活性化を目的に活動しています。上小阿仁支署では、職員がこの会議の一員として活動に参加し、そのコミュニケーション活動に森林ふれあい活動を提案し、実施することで、地域の若者に国有林を身近に感じてもらう、関係が希薄となった地域と国有林を結びつける取組を行いました。



具体的には、「若者会議」が地域の若者に参加を呼びかけ、ま

ず共同作業や対話を重視した座学のワークショップを

行い、森林や林業への認識や知識を参加者で共有しました。その上で、村内国有林にある水源分散策などを行い、参加者の意識レベルが段階的に向上するよう、認識↓知識↓関心・動機↓行動の一連の流れに沿うことも意識し、取組を進めました。

「国有林を楽しく学べた」、「もっと知りたくなった」などの感想が聞かれ、地域の若者の知識や関心が向上したと考えています。



森林保全部門

絶滅危惧種イヌワシと生物多様性の保全を目的とした等高線方向列状間伐の効果

東北森林管理局  
三陸中部  
森林管理署



盛一樹

岩手県環境保健研究センター  
イヌワシ研究者 井上祐治  
東北鳥類研究所  
前田琢  
三浦則雄  
由井正敏

イヌワシは、生息数の減少から、近い将来における絶滅が懸念されています。

行動圏内の人工林が成長し、隣り合う木々の枝が重なり合うと、イヌワシにとっては主要な餌であるノウサギの捕獲が難しくなる上、ノウサギの餌となる草本層の植生も減少します。イヌワシが餌を獲るのに適した環境の減少は、生息数減少の一因と考えられていることから、このような人工林を餌場環境として再生する研究を行いました。

通常は斜面に対して縦方向に伐る列状間伐について、等高線沿いに飛翔するイヌワシの習性を考慮して等高線方向(斜面に対して横方向)に伐る方法で実施し、4年にわたるイヌワシの定点観察やノウサギの生息数、草本層植生の調査を実施し、等高線方向の列状間伐の有効性を検証しました。

間伐の結果、草本層の植生が増加し、ノウサギも増え、イヌワシが餌を探しに来る頻度も比較的高くなり、ま



撮影：盛一樹



た斜面に沿った飛翔が多かったことから、等高線方向の列状間伐はイヌワシの餌場造りに寄与し、生息環境の保全に資するものと考えています。



審査委員よりひとこと

関東森林管理局国有林モニター  
荒井 優紀子さん

どの報告も森林を豊かにしたいという「思い」が見えました。生物多様性保全を目指す取組(イヌワシの保護等)は初めて知った事例で、多くの人に知ってもらい広く実践での応用を期待したい内容でした。

